

氏名	仲 井 宏 充
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲 第 1207 号
学位授与の日付	平成 6 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医学研究科生理系脳代謝医学（神経化学）専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Enhanced Expression of Complement Regulatory Proteins on Thyroid Epithelial Cells of Graves' Disease (Graves病甲状腺濾胞上皮細胞における補体制御因子の表出増 強について)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 辻 孝夫 教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Graves病では高頻度に*in vitro*における補体依存性細胞障害能を有する抗甲状腺マイクロゾーム抗体が存在する。しかし、Graves病甲状腺では組織破壊を殆ど認めない。我々は、この解離を膜性補体制御因子の関与によるものと推察した。Graves病、橋本病、甲状腺腺癌および正常甲状腺組織におけるmembrane attack complex inhibitory factor (MACIF) 並びにdecay accelerating factor (DAF) の表出を検討した結果、MACIF, DAFのGraves病濾胞上皮細胞における表出の増強を発見した。さらに甲状腺細胞を培養し、膜蛍光抗体法及びcell enzyme-linked immunosorbent assay法を用いて、TSH, phorbol 12, 13-dibutyrate, 甲状腺刺激抗体 (TSAb) がMACIF, DAFの表出を増強させることを発見した。以上よりGraves病では、TSAb等の甲状腺刺激因子により増強した膜性補体制御因子が甲状腺自己抗体による補体活性化より甲状腺細胞を保護していることが示唆された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、Graves病甲状腺濾胞上皮細胞における補体制御因子の発現を検討し、MACIF

およびDAFの発現増強を明らかにしたものである。Graves病では、抗甲状腺マイクロソーム抗体の存在にも拘らず組織破壊を認めないが、本研究の結果は、補体制御因子が自己抗体による補体活性化を抑制していることを示唆する重要な知見であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。